

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 3390900086 | | |
| 法人名 | 有限会社ウェルネスプランニング | | |
| 事業所名 | グループホーム ウェルネス津川 | | |
| 所在地 | 岡山県高梁市津川町今津1826*1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年11月15日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年3月22日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あしすと |
| 所在地 | 広島県福山市平成台31-34 |
| 訪問調査日 | 令和3年1月20日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人の思いに寄り添い、その人らしく暮らし続けられるよう支援しています。職員一同「笑顔」を大切に、利用者と地域の方・ご家族との関係も大切にしたいと考え、行事への参加時に食事作りなどでお手伝いいただき、職員・ボランティアとの交流の場となるよう働きかけています。(今年度は新型コロナウイルスの関係で外部の方との交流は例年の半数以下となっているが)入退居により新しく入居された方は環境の変化に戸惑われることがあったり入居中の方の中にも環境の変化に戸惑われることもり、その都度、管理者・ケアマネと職員が協力してケアの統一ができるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は静かで自然豊かな環境にあり、高梁市津川地域市民センターが隣接している。認知症カフェや認知症サポーター養成講座を市と連携を図りながら開催し地域貢献している。運営推進会議には地域住民の参加が得られ、情報共有や意見交換を通じて地域との協力関係を築いている。施設内で利用者は有する能力を活かして生活リハビリや役割を果たしながら、ゆったりと穏やかに過ごしている。協力医とも良好な関係を築いており、受診や重度化した場合の適切な対応が利用者・家族の安心へと繋がっている。管理者は職員からの気付きをユニット会議で議題に取り上げ、日々の介護に活かし利用者の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----------------|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 特定非営利活動法人 あしすと | | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事務所に掲示し、申し送り時に唱和し念頭に置くことで実践につなげている 毎月の会議で入居者の思いを共有し理念に沿った目標を立て実践につなげている | 入居者の安心安全な生活と地域貢献を理念に掲げ、毎朝唱和し意識付けをしている。毎月の会議では介護やケアに関するユニット目標を設定し、職員の理解度と達成状況を確認しながら実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 近隣の小中学校が交流に来られたり出張認知症カフェを月一回2カ所交互に行っている(今年度は新型コロナウイルスの影響で中止することもあった) | 近隣の中学校で認知症サポーター養成講座を開催し、職場体験を受け入れている。認知症カフェを2カ所で交互に開催し、楽しい会話をしながら地域住民と交流している。ボランティアで畑の世話をしてくれたり玄関先までお花を届けてくれる人もいる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近隣の小学校や市民センターで認知症サポーター養成講座を開催したり、認知症カフェを通じ理解や支援をもらっている(今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、例年より開催回数は減少) | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を通じホームの活動状況や入居者の様子、ヒヤリハット、行事・研修の報告をしている。行事の際には内容について相談、参加してもらっている(今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、すべての行事を入居者・職員のみでの開催) | 市職員・介護医療連携課・地域住民などの参加を得て2ヶ月に1回開催している。事業所の活動報告やヒヤリハットなどを議題に、質問や意見交換が行われている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議、認知症カフェに参加してもらっている 認知症サポーター養成講座を市役所・社会福祉協議会等と協力し開催している(新型コロナウイルス感染拡大により中学校での開催1回のみ) | 市職員とは運営推進会議や認知症サポーター養成講座で、地域包括とは認知症カフェを通じて連携を図り、協力関係を築いている。市からは感染症対策としてアルコール消毒物品や資料の提供がある。県の事業を利用し各部署から講師を招き研修を実施している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアについての社内研修を定期的に行ったり各ユニット会議において禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するよう話し合い廃止に取り組んでいる | 身体拘束委員会と毎月のユニット会議で話し合いや研修を行っている。事例を取り上げて、声のかけ方などを検討しケアに取り組んでいる。職員に一声かけてから敷地内を散歩する人、畑の野菜を収穫する人、玄関に座って利用者同士が会話するなど自由な暮らしを支援している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止についての研修(社外から講師を招き)を定期的に行い、虐待防止の理解を深めている。各ユニット会議を利用し研修に参加できなかった職員にも周知徹底させ虐待につながる行為が見過ごされないよう話し合っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 後見人をして下さっている司法書士や社会福祉士から制度について学ぶ機会を作っている 家族と連絡を取りながら必要に応じ活用できるよう支援している | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約締結時、利用契約・重要事項について丁寧に説明し、理解してもらったうえで契約している。疑問点については都度対応するようにしている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関ホールに「意見箱」を設置している 面会時にご家族から意見や要望を聞くようにし、ユニット会議・リーダー会議で報告し全職員で共有している | 利用者からは日常生活の中で、食事や散髪・電話などの要望を聴き反映させている。 家族へは電話や来所時に利用者の状況を伝え、意見を聴いている。面会や歩行についての要望があり、窓越しの面会や介護計画に反映させている。 | 現在コロナ禍で自由に面会ができないので、利用者の様子を写真やコメントなどで伝え、家族の安心につながることを期待します。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ユニット会議やリーダー会議で意見・要望を自由に発言できる機会を設けている 各リーダーは現場の職員からの意見・要望等を聞き会議以外でも自由に相談できるようにし、運営に反映させるよう努めている | 毎月のユニット会議や年1回の個人面談、又は随時個人的な事も含め意見や要望を聴いている。ケアの方法、設備・機器に関する事、勤務相談などに反映させている。利用者の楽しみとなるよう職員が花見や紅葉狩りなどの行事を企画している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年1回の昇給、年2回の賞与支給のほか資格取得を推奨し取得のための一部補助、資格手当等を支給している 受講・受験できるよう勤務調整している | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | キャリア形成訪問事業を活用しての自施設研修や接遇研修のほか社外での研修や講習会の機会を作っているが今年度はコロナ禍の為、見合わせている。ユニット会議等でケアマネや管理者等による職員研修をしている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他職種交流事業及び介護支援専門員の交流会、キャラバンメイト・認知症カフェ連絡会議に出席し同業者との交流を図り意見交換等し、職員間で共有している。(今年度は新型コロナウイルスの関係で開催が大幅に減少) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の面談で家族からご本人の様子や思い、不安等をしっかり聞きプラン作りに役立っている。笑顔と穏やかな声かけで安心感を持っていただける雰囲気作りを心掛けている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の不安、困っていることを聞きサービス内容を検討するようにしている。いつでも遠慮なく意見が言えたり相談ができる雰囲気作りを心がけている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 毎月ユニット会議を開催し必要な支援を話し合っている。定期の会議以外でも状態の変化が見られた際には都度話し合いの場を設け、本人とご家族の現状に留意し、一緒に支援方法を決めるようにしている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人の残存機能に応じ自分のことだけではなく、清掃、食事の支度・後片付け、洗濯物たたみ等を一緒に行っている。一人一人が役割を持てるよう配慮している | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族に本人の日頃の様子を伝え常に情報を共有し自然に関わりが持てるように努め、ともに本人を支えていく関係を築いている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族・知人が来やすい雰囲気づくりに努めている。新型コロナウイルスの関係で自由に面会ができなくなってからはガラス越しでの面会や電話での会話し、関わりが保てるように支援している。 | 定期的に家族に電話する人、年賀状が届く人、手紙やはがきを出す人がいる。職員の送迎で馴染みの理髪店へ行き、知人と話をして帰る人がいるなど、関係継続の支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一人一人の感情の変化を理解したうえで、職員が間に入りクッションになったり橋渡し役をしながら孤立、不穏にならないよう努めている(職員は常に中立の立場で対応している) レクリエーションや行事等で入居者同士の交流を図っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居時には転居先等に情報提供を行い、転居先等の相談員とも近況や過去の情報のやり取りをすることもある。ご家族へも困り事があればいつでも相談に来られるよう声を掛け連絡を絶ち切らないように努めている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族からこれまでの暮らしぶりを聞いたりホームの生活の中で本人の意向を汲み取るようにし、一人一人の思いや希望を聞き、職員間で共有し支援に努めている | 入浴やトイレなど個人対応の時に身体や排泄に関わる思いを聴く事がある。直接事務所に思いを伝えに来る人もいる。把握した思いや意向は職員で共有し、介護計画に活かしている。困難な場合は本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人との会話や思い出話、家族からの話を聞き、生活歴の把握に努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 朝夕のバイタルチェック、表情等の様子観察をし、身体面・精神面の日々の様子を記録に残し職員間で情報を共有したうえで、状態変化の際にも対応できるようにしている。ケアプランに本人のできる事を組み入れプランに沿ったケアの実践を心がけている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の意向をもとに定期的にカンファレンスを行い現状のニーズに沿った介護計画を作成していくよう努めている 月に一回のユニット会議を行っているほか毎月ケアプランの評価を行っている | 毎日の申し送りや家族の話からケアマネが利用者の状態や要望を把握し、担当者と話しながら介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、最長半年で見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録の大切さを認識させ、日々の様子や状態の変化など見逃すことのないよう記録し、ケアの実践、見直しに生かしている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 少人数での外出や個人での買い物の外出支援や病院受診等必要な時は対応できるよう取り組んでいる(今年度はコロナの影響で買い物は控えドライブを兼ねて桜やコスモス等見に出かけた) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 例年は各種ボランティアに來所してもらうなど安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しているが、今年度はコロナの影響もあり、ボランティアに作ってもらっている畑の農作物を収穫したり草取りをするなどした | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族の希望を聞き家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるよう支援している | 本人・家族の希望のかかりつけ医を受診できる。夜間や緊急時は協力医の往診がある。電話相談もしやすく、指示を受けて対応しており、医師との良好な関係を築いている。歯科は症状により往診も受診もできる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎朝夕のバイタルチェック、入浴時の全身観察等、日々の心身の状態の気付きを管理者に伝え、異常を発見した時はいつでもかかりつけ医に相談・受診できる体制を整えている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療関係者との連絡を密に取り、情報交換や相談をしている 入院中、利用者が不安なく過ごせるように家族や医療関係者に施設での生活ぶりを情報提供するようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に、重度化した場合における対応について家族から希望を聞き、必要に応じてホーム関係者、家族、医師と話し合う機会を設けチームでの支援に努めている。万が一の事態の対応についてご家族の要望等を聞いておくようにしている 介護度が上がった時、今後の希望等を再確認している | 入居時に事業所で出来る事出来ない事の説明を行い、今後介護度が上がった場合や緊急時の対応について家族と話し合っている。看取り時には医師や家族と随時連絡を取り、職員は声を掛け合って、チームで支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的にAED業者に來てもらい使用方法の講習をしてもらったり避難訓練時に対応の訓練をしている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防訓練、避難訓練を地域の方、地元消防団・消防署職員・消防設備業者等の協力を得て行っており、万が一の火災・自然災害等に備えている 実際に消火器を使用し消火の訓練も行っている | 年2回夜間想定も含めた消防避難訓練を地域住民・利用者も参加し実施している。消防署から点検確認方法のアドバイスが得られ、対応を検討した。災害危険区域であるため、避難行動の確認や備蓄など災害の発生に備えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 自尊心を傷つけないよう自己決定と尊厳を大切にし相手の立場に立った対応を心がけている。また、個々に応じた声かけや対応を心がけている | 研修を実施し、利用者の尊厳を大切にしている。食事の時など自己決定しやすい言葉かけを工夫し、排泄時にはプライバシーを損ねない声かけや対応に配慮している。トイレ内のパッド類も人目に触れないように収納し、イニシャルで表記している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いや希望を聞き自己決定に結びつけている。表情やしぐさなどから思いを汲みとり自己決定に近づけるよう努力している。また、言いやすい環境作りにも心がけている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れは大まかに決めてあるが、日々本人のペースで生活できるよう一人一人の希望を聞くようにしている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節や状況に応じた服装やその人らしさを大切にしている 希望があれば理・美容室等へお連れするようにしている(約3か月おきにホームへ散髪にも来てもらっている) | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 好みの物を聞きながらメニュー作りをしている(冷蔵庫等にある材料で) できる方には職員と一緒に下ごしらえや食器拭き後片づけ等をしていただいている。希望で3食パン食の方もある | 事業所の畑で収穫した旬の野菜を使用しながら、職員が一汁三菜を心掛けて手作りしている。利用者と職員は同じテーブルで食事をしている。餅つきや、ホットケーキ作り、正月にはおせち、敬老会には衛生面に配慮しながら刺身を提供するなど行事食で食事を楽しむ支援としている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスを考えメニュー作成をしている。状態に合わせて食事の形態(ミキサー食・トロミ・キザミ・高カロリー食)やメニューの変更をしている。一人一人の食事量・水分摂取が把握できるよう記録し、必要に応じ食事介助をしている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアを行っている。職員が側で見守り声かけをしながら丁寧に磨けるよう支援している。必要な入居者には椅子を用意し座ってできるようにもしている。歯ブラシ・コップ等は定期的に消毒を行い清潔を保つようにしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人の排泄のタイミングなどを把握し、声かけ・誘導している。尊厳を保ちながらあらゆる声掛けはせずトイレの誘導をしている 排泄チェック表を活用している | 排泄チェック表を基に本人のタイミングで誘導し、日中は介護度の高い人も含めトイレでの排泄を支援している。パンツやパッド類は適切性を職員が検討し、出来る限り布パンツを使用している。歩行や椅子への移乗などで生活リハビリを行い、本人の有する能力を活かした対応をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便通に良い食事の工夫や水分をしっかり摂取できるよう声かけしている 散歩やホール内を音楽に合わせて歩くなど運動をし身体を動かしている 便秘がちな方には医師の指示のもと、緩下剤を使用することもある | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 決まった入浴日はあるが、本人の希望で入浴できるようにしている。浴槽に入れない方には足湯をしながらのシャワー浴をするなど個々に沿った支援をしている | 週2～3回午前を基本に入浴している。希望があれば毎日でも入浴できる。職員と一緒に着替えの準備をする人もいる。職員との会話や歌を楽しみながら、入浴剤や柚子湯で工夫し支援している。嫌がられる人には職員の交代、日時の変更で対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて気持ちよく眠れるよう室温や布団を調整している 眠れない時はお茶を飲むなどして職員と一緒に過ごしている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬効等、記したものを個人ファイルに綴じてあり、職員は常に確認するようにしている 内服までに二重三重のチェックをしている 気になることは管理者に報告し医師に相談するようにしている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 畑仕事、パズル、編み物等好きな事したり、皆で歌を唄う等して過ごせるよう支援したり、炭酸飲料やパン食など嗜好品を提供できるようにしている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 季節の花や催し物を見にドライブに行ったり、本人の希望を聞きながら外出支援をしている 少人数で桜やコスモスの名所に出掛けている。(例年であれば地域の催しを見学に行くこともあるが、今年度はコロナの影響で実現せず) | 花見・お雛様の鑑賞・絹掛けの滝など少人数対応で出かけている。外出先でたい焼きを買って食べたこともある。暖かい日には施設内の東屋でお茶を飲み、介護度の高い人も車椅子で戸外に出ている。施設内を自由に散歩する人もおり、見守り対応をしている。靴を買いたいなど希望があれば、一緒に買い物に出かけている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人が管理することが難しくトラブルのもとになる可能性もあり、事務所で小口として預かっている。必要に応じ買い物をしたり、外出時に好きなおやつを買うことがある | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば知人や家族に電話がかけられるようにしている 手紙やハガキ(買い置きしてあり希望があればお渡しする)のやり取りが自由にできるようにしている(職員が預かり投函している) | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールの壁を季節に応じてめり絵や貼り絵を飾ったり、居室入口には折々の行事等の壁飾りを作り掛けている。ホールでレクをしていない時は好みの曲や静かな曲をBGMとして流している 共有の場所は落ち着いて気持ちよく過ごせるよう工夫している | 木の優しさを感じる広く明るいホールには利用者が集い、お茶を飲んだり、新聞を見ながら過ごしている。壁には利用者の作品や季節を感じる装飾が施されている。ホールに隣接するキッチンからの調理の音やにおい、人の気配が生活感のある居心地の良さへと繋がっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 席次や配置に気を遣い、気の合う者同士が隣に座れるなど思い思いにリラックスできる空間づくりを工夫している | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みの品や家で使っていたものなどを自由に持参し、居心地良く過ごせるよう工夫している エアコンは各居室で調節可能で好みの温度に各自で調節したり職員が希望を聞き調節している | 寝具、馴染みの物が持ち込まれ、利用者が色付けしたカレンダーや家族の写真などが飾られている。帽子や服をかけてあるおしゃれな人、自室でテレビを見てくつろぐ人など本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 慣れた環境で安心して過ごしてもらいながら、衣類の脱ぎ着、洗濯物の片付け等、出来ることをしてもらおうよう声かけ見守りながらしてもらっている いつでも趣味の手芸やパズルができるようにしている | | |

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---|--|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 10 | コロナ禍で自由に面会できない中で、入居者の様子を写真やコメントでご家族に知らせ安心につなげる。 | 電話での近況報告だけでなく、定期多岐にホーム内での様子を写真や文書(担当職員のコメント等も同封)をお送りし、ホームでの様子を知っていただくことで安心につなげる。 | 月初めの請求書発送時にホームだよりと個々の様子が分かるよう写真や文書(担当者からのコメント等)を同封しご家族にお送りする。 | 1ヶ月 |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

| 【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】 | |
|---------------------------|---|
| 実施段階 | 取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印) |
| 1 サービス評価の事前準備 | <input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った |
| | <input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した |
| | <input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした |
| | <input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した |
| | <input type="radio"/> ⑤その他() |
| 2 自己評価の実施 | <input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した |
| | <input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った |
| | <input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った |
| | <input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った |
| | <input type="radio"/> ⑤その他() |
| 3 外部評価(訪問調査当日) | <input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった |
| | <input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた |
| | <input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た |
| | <input type="radio"/> ④その他() |
| 4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開 | <input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った |
| | <input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った |
| | <input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った |
| | <input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った |
| | <input type="radio"/> ⑤その他() |
| 5 サービス評価の活用 | <input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した |
| | <input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する) |
| | <input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する) |
| | <input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む) |
| | <input type="radio"/> ⑤その他() |